

●はじめに【長文案】

芦屋市は六甲山を背に大阪湾を臨み、古来より豊かな自然と良好な住環境に恵まれています。芦屋の風光明媚な景観は都人をも魅了し、『伊勢物語』をはじめ、古典文学の舞台にもなりました。明治末から昭和初期には、鉄道の発達に伴い大阪や神戸の郊外住宅地として急激に変貌する中、「阪神間モダニズム」と呼ばれる洗練された地域文化が開花し、多くの芸術家や文化人が活動しました。戦後は、昭和26年に制定された「芦屋国際文化住宅都市建設法」に基づき、国際文化の向上に寄与する独自のまちづくりが進められ、今日の発展につながっています。

このような本市のあゆみの中で、国指定史跡会下山遺跡や国指定重要文化財旧山邑家住宅（淀川製鋼迎賓館）をはじめ数多くの歴史文化遺産が生み出され、小出檜重や吉原治良ら具体美術協会会員の美術作品、谷崎潤一郎や富田砕花らの文学作品等、優れた芸術・文化が育まれてきました。

芦屋市立美術博物館は、これら本市の歴史・芸術・文化の次世代への継承、市民への学習機会の提供、市民の参加の促進、未来を担う子どもたちの豊かな感性を育み、文化を担う人材の育成を使命とする全国でも数少ない美術館と博物館の役割を兼ね備えた施設として、平成3年に本市の海浜部に位置する伊勢町に開館しました。さらに、図書館、谷崎潤一郎記念館とともに芦屋文化ゾーンを構成しています。

以上のような芦屋市立美術博物館の使命を明確にし、資料・作品の収集、保管、展示、調査研究及び教育普及活動等の事業を実施するために「芦屋市立美術博物館運営基本方針」を策定します。